

# 令和4年度四国防災トップセミナーの開催 テーマ:巨大地震から命を守る

～「南海トラフ地震臨時情報の活用」と「熊本地震からの復興×SDGsの取り組み」～

目的:四国内の市町村長と四国南海トラフ巨大地震対策戦略会議メンバーが一堂に会し、被災を実体験した市町村長や防災に関する豊富な知見を有する学識経験者の講演や意見交換を通じることで、防災に対する見識を深め、地域防災力の向上を目指す。(平成12年度から開催しており、今回が23回目の開催)

- 日時:令和5年1月27日(金) 14:30～17:15
- 場所:サンポート合同庁舎 13F及び高松シンボルタワー かがわ国際会議場
- 開催形式:対面及びWeb併用(YouTube同時配信)
- 出席者:約270名(対面:約130名(かがわ国際会議場含む)、Web:約140名)
  - ・市町村の首長:54名、代理30名
  - ・四国南海トラフ地震対策戦略会議の構成員:23名、代理20名 他
- 報道状況:四国新聞社、愛媛新聞社、高知新聞社、業界3紙(日刊建設工業新聞、建通新聞社、建設通信新聞社)



## 【講演内容】

- ◆講演①『熊本地震の経験と教訓を生かした災害に強い持続可能なまちづくり』  
熊本県 熊本市 市長 大西 一史 氏

### 《要旨》・熊本地震の被害状況

- ・災害発生時に実際に起こったこと(直面した困難な対応)
- ・大規模災害発生を想定した備えの大切さ、行政トップとしての心構え
- ・熊本市におけるSDGs未来都市の取り組み

- ◆講演②『南海トラフ地震の仕組みと南海トラフ地震臨時情報の活用』  
愛知工業大学 地域防災研究センター長 横田 崇 氏

### 《要旨》・地震災害から命を守るためには、直下地震への備えが必要

- ・南海トラフ地震は現時点で予知はできない。突発する地震への備えを。
- ・臨時情報を活用した突発地震対策とその推進が必要
- ・BCPの実行性を高めるために、LCP(生活継続計画)の作成が重要

